

(体育)

## 「仲間とともに楽しく運動する子どもを育てる」

大阪市立弁天小学校 三原 幸代  
松崎 喬平  
木脇さやか  
森田 瑠奈

### 1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標『生きる力』をはぐくみ人間性豊かな子どもを育てる」を設定している。

2016年12月21日、中央教育審議会の答申において、これからの教育課程で育成を目指す資質が、3つの柱に基づいて再整理された。そのためには、「主体的・対話的で深い学び」を辿ることが必要であると言われている。

本校では、2年前まで「仲間づくり」の研究を積み重ねてきた。この研究を継続しつつ、特に「深い学び」について、運動に対する理解を深め、確かな知識に基づいた児童同士の学び合いができることをめざし、そこから①運動に関する「知識・理解」、②運動課題の発見・解決等のための「思考力・判断力・表現力等」、③主体的に学習に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」の育成につなげていくこととした。

本校の児童は、休み時間や放課後の校庭開放で友達と誘い合って体を動かして遊んでいる。地域でも、子ども会のスポーツチームに所属したり、体を動かす習い事に通っていたりする児童がいる。しかし、取り組む競技が限定的であるため、異なる技能が必要な運動や、なじみの少ない運動には苦手意識をもっていることが伺える。また、全く体を動かさずに放課後の時間や休日を過ごしている児童も一定数いることが事前アンケートからわかった。そこで、運動の楽しさを味わい、生涯にわたっていろいろな運動に親しみ、明るく豊かな生活を営んでいける児童を育てたいと考え、昨年度から体育科を研究教科とし、研究主題を「仲間とともに楽しく運動する子どもを育てる」と設定して研究をすすめてきた。

### 2. 研究の趣旨

体育科における本校のめざす子ども像は、「進んで運動に取り組むことができる子ども」「友達とともに課題解決に向けて考えることができる子ども」「互いの良さを認め、より高い資質や能力を追求できる子ども」である。

研究にあたり、教職員全員が「研究推進」「研究環境」「研究体力」の3部会に分かれて研究を進めてきた。研究討議会は、3つの視点を中心において意見交流を図った。さらに、出された意見を全体で交流することで、教職員間で「深い学び」ができた。また、学んだことを「ふりかえり」としてまとめ、日ごろの授業実践を積み重ねてきた。

また、体育科の研究を進めていくにあたって、校内の体育研修にとどまらずに加えて、大阪市教育局主催の体育研修会も基本的に全員が参加した。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 主体的に学べる環境づくり
------------------

○ 児童が主体的に楽しく学べる為に、場の工夫や環境づくりを意図的に設定して授業を

展開する。

- 学習カードは、児童が課題を見つけ、解決に向けて見通しを持ち、主体的に取り組むために効果的な手だてとなるように作成する。また、言語で表現する力も定着できるようにする。
- 全学年共通の振り返りの3つの柱「1 主体性」「2 安全面」「3 協働性」を立て、系統的な「主体的・対話的で深い学び」になるようにする。
- 主体的に学習を進められるようにミュージックタイマーを活用する。
- 運動や遊びの全体像をつかむ為に、映像資料やタブレットなどの視聴覚機器を活用する。
- 「もっとやりたい」「さらに上達させたい」という深い意味での楽しさを追求する主体性を養う。
- 運動の特性を理解する為の工夫をする。
- 運動を上達させるために自分の力に合った練習を積み重ねていける場の設定を工夫する。

#### 視点② 楽しく運動に取り組むための指導法の工夫

- 楽しく運動する為の展開や指導者の言葉かけを工夫する。
- 適切な運動量を確保する。
- 児童が思わずやってみたくなるような活動にできるよう、発達段階に適した教材を選び、多様な用具を準備する。
- 児童が創り上げていく活動を設定する。

#### 視点③ 仲間と学び合う場の設定の工夫

- 友達のよいところを伝え合ったり、お互いにアドバイスをしたり、グループで話し合ったりする時間を大切にする。
- 他者との対話を通して自己の考えを広げたり、深めたりできる対話的な学びの充実を図る。
- 作戦タイムや互いのアドバイスをより充実させる。
- 児童の実態に応じた作戦板を活用することで、動きが明確になり、次の運動に役立てることができる。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 「弁天体操」というオリジナルの準備運動を毎時間行うことで、心身ともに温まったり、ほぐしたりすることができ、基礎的な体の動かし方を身につけることができた。
- 児童にアンケートをとった結果、①「体育が好き」②「体育が得意」③「友だちと一緒に運動することが好き」④「休み時間や放課後に体を動かしている」のどの項目も「あてはまる」と答えている児童の割合が上がった。

### (2) 今後の課題

- 技能を確実に向上させる指導法の工夫
- 学びを深めるための話し合いのあり方